

思ひ草

第17号

平成27(2015)年7月14日 発行

「場を得て、子どもは輝く」～「損在」を「尊在」に～

人間開発学部長 しんとみ やすひさ 新富 康央



「あなた班長、私ただの人」。荒れた中学校の生徒指導を頼まれた際、目に付いた学級新聞の見出しです。この言葉には、今抱えている子どもたちの心情が表れていると思いました。

「この中に成績が5や4も居るけど、今日俺は、成績3以下のおまえ達のために来たのだぞ」。この一言で、講演会の空気が一変する生徒の実態があります。成績'3'の中学生が、学校での自分の位置づけを、「その他」「お客さん」「おまけ」「付録」と、否定的な自己認識に陥っている実態があります。

文部科学省もそれ故に、平成20年度学習指導要領の基底には2つのキーワードを置きました。「自分への自信の喪失」、「閉じた個」です。言い換えれば、「損在」状態だと言うのです。

では、どう対応すれば良いか。その点については、教育界には「不易」の言葉があります。その一つが、「場(持ち場)を得て、子どもは輝く(光る)」という言葉です。

そこで、冒頭の中学校では、以下のことを採り入れてもらいました。係り活動の「一人一役(多役)輪番制」、各学級で「お

いで、入れて、ありがとう、ごめんね、良かったね」など、言葉を決めて1日1回を目標に頑張る「合い(愛)言葉運動」、昼休み教師が一人ピッチャーをして打者に向かい学級生徒に話しかけるなどの「渦巻き型学級経営」、当番活動型の生徒会活動(させられる生徒会)から、「物を創ることで鍛える」文化創造型生徒会活動への移行、などです。小学校であれば他に、「握手作戦」「腕相撲大作戦」などの実践も見られます。

こうして、子どもたちは連帯の中で自分の持ち場を得て、すなわち「尊在」を獲得することにより、自らを輝かせるチャンスを得るのです。個を育てることと、集団を育てることとは、このように「相即不離」の関係にあると言えます。

「教育の前に、人間開発在り」を標榜する本学部は、3つの教育テーマを挙げています。「頑張ることを応援」する教師づくり、「手当て(心に手を当てる)」のできる教師づくり、そして、「損在を尊在にする」教師づくりです。一人でも多くの子どもたちを「尊在」感に高める教師になって欲しいと願います。

教職を目指す皆さんへの期待

教育実践総合センター 教授 ぎんなん ようこ 銀杏 陽子



私は40年間東京都の小学校に勤務していました。長く小学校教育にかかわり強く思うことは、子どもはどんな教師に出会うかで、その成長と幸せが大きく異なるということです。教師と子どもの間に強い信頼関係ができ、毎日生き生きと学習する子どもたちを多く見てきましたが、その逆に、荒れた学級もいくつも目にしました。いい教員を育てたい。そんな思いでこの4月にまいりました。

「学習するのは、子どもである」

「子どもは、一人一人みな違う」

「子どもは、自ら成長する力をもっている」

これは、私が担任時代に大切にしてきたことです。そして、今でも指導の基本と考えています。

第一は、学習は教師が教え込むのではなく、子どもが主体的に学ぶことができるようにすることです。子どもが学習課題を見つけ、学習計画を立て、課題を解決する学習が大切であり、教師は学習環境を整え支えることが必要です。

第二は、子どもは一人一人みな違う存在であって、一人として同じ子どもはいない。一人一人の個性や学び方の特性を踏まえた指導をすることが大切であるということです。

第三は、子どもは教えないとできるようにならないのではなく、自分で学び成長していくのであり、子どもの中には無限の可能性が秘められているということです。そう信じて子どもに任せてみると、子どもたちは驚くほど意欲的に活動し力を発揮します。子どもが「できた」「わかった」という時の輝きに満ちた瞳と笑顔を見ることは、教師にとってこの上もない喜びです。こうした毎日の積み重ねが信頼関係を築きます。

「自ら学び続けるものだけが教えることができる」

私自身、教員になって日々子どもから学び、また、特別活動を中心に研究・研修を続け、その過程で自らの子ども観・授業観を磨いてきました。教職を目指す学生の皆さんには、ぜひ、自らの人間性を豊かにするとともに教員としての専門性を高め、目指す教師像を明確にもってほしいと思います。

教育実践総合センター事業の主な取り組み

本センターは、「教育」「研究」「社会貢献」の三分野における実践研究指導センターとして、教育インターンシップや教育実習等の支援を主に行う「学生支援領域」と、地域の教育関係諸機関や現職教員との連携の支援を主に行う「地域教育支援領域」について行っています。

教育実習

学校現場での実習から多くのことを学びました

教育実習での学びのために

人間開発学部助教 伊藤 英之

教育実習を終えた学生と話をすると、実習の感想や自身の体験の振り返りなど、様々な話をしてくれます。そして、話をしたほとんどの学生に共通しているのは、充実感に満ちた顔と、「すごく勉強になりました」という結びの言葉です。このような話を聞いていると、教育実習は、学生にとってとても良い経験になるのだと改めて感じます。

私は、教育実習を、日ごろの大学での学びを教育現場でどのように活かすのかを考える機会であると捉えています。つまり、頭に入れた様々な学問の理論や知識を、刻々と状況が変化したり対応する相手の特性が変わったりする、生きた教育現場での「実践力」にいかに変えるのかを考え、トライする場ということです。例えば、体育実技の授業であれば、運動やスポーツを教材とするため、人間が動くことそのもののメカニズムや運動が上達していくメカニズム、運動が好きになるまたは嫌いになるメカニズムなど、運動やスポーツに関わる様々な理論を理解していないと、本当の意味での運動技能が向上する授業や運動が好きになる授業をすることは、なかなか難しいのではないかと思います。また、運動やスポーツはケガが発生するリスクを伴うため、その日の内容ではどのようなケガが起こりうるのかといった知識も必要になります。さらに、挨拶や準備・片付けなどの「展開」以外の部分で行われる一つ一つのことに、どのような教育効果を期待し、与えられるのか考え、その教育効果を生徒が得られるように仕掛けを作るための知識も必要になるのではないかと思います。

理論をしっかり理解し、多くの知識を備えたうえで、実践の場において一つ一つに根拠のある指導を行い、振り返りをして次につなげていくということが、教育実習での学びをより意義深いものにするのではないかと思います。よりよい教育実習にするために、学生たちには、是非多くの理論や知識を頭に入れた上で臨んで欲しいと思います。

現場で学ぶ 教師の役割

健康体育学科 3年 古屋 徹郎

教育実習を通して、現場へ行かなければ分からなかったことを幾つも学ぶことができました。それは、自分の考えがいかにかかったかを痛感させられる経験でもありました。その中でも特に勉強になったと感じることが2点あります。

1点目は、「できない子どもに合わせた授業づくり」です。あるソフトボールの授業には数名の未経験者と多数の経験者がおり、「とにかく試合がしたい」という雰囲気があります。こんな時あなたはどんな授業を行いますか、想像してみてください。私の授業はまさにこの状況でした。試合は楽しいけど練習は面倒くさい、という雰囲気に負けそうになった時もありました。しかし、できないことをできるようにするのが体育の基本であり、できない子どもに合わせた授業を行うべきだ、ということ学びました。スポーツはできないと楽しくないのは明白です。だから、全員が楽しむために基礎から丁寧に指導する意味があるのだと思いました。

2点目は、「教師が手を出しすぎないこと」です。文化祭で使用する机の個数(生徒の希望)を確認した時、絶対に足りなくなると感じました。こんな時あなたは生徒に何と言葉をかけますか、想像してみてください。私の指導教諭はこの時、何も言わずに希望を通しました。そのまま準備を進めていると生徒が「机が足りない!」と言い出し、そのことを指導教諭に伝えたところ「それはよかった」と言いました。よかったのは、生徒たち自身が気付いたという点なのです。実際に失敗して初めて学ぶことがあります。その貴重な失敗経験を作るも壊すも、教師の力量にかかっているのです。生徒の成長のため、手を出しすぎずに遠くで見守ることも教育なのだと思ふことができました。

教師は子どもの未来を左右する崇高な使命を担っているのだと改めて感じ、同時に教師に対する魅力も高まりました。これから、目指すべき理想の教師像に向かって突き進みたいと思います。

保育実習・教育インターンシップ

子ども支援学科の「保育実習」も始まりました。

5月から教育インターンシップが始まり、6月には子ども支援学科の学生の保育実習が始まりました。

ここでは、子ども支援学科の学生が保育実習や教育インターンシップの自らの体験を通して学びを深めていく姿を紹介します。

子どもと生活を共にすることで分かったこと

子ども支援学科 3年 横田 真

6月に保育所で2週間の保育実習を行った。今回の実習では、3歳児クラスと1歳児クラスに一週間ずつ入らせて頂いた。特に1歳児クラスでの印象に残ったことを紹介したい。

1歳児クラスに入るようになった時、初めは子どもに対してどこまで関わって良いのか分からなかった。例えば、給食を食べる時には、見ているだけでいいのか、口までスプーンを持っていくのかなど、子ども一人ひとりに対して関わり方が違う。1歳児クラスに入りたての私はただ見ていることが多かったと思う。保育士からのアドバイスを参考にしながら、子どもの状況に応じて、「どう関わるか」、「どこまで支援をするか」を考えながら関わることを意識するようになった。着替えの時には、子どもが全てやりたいと言うのか、足を通せば、あとは子どもがするのか、保育士が子どもの発達を理解しながら、ねらいを持って子どもと関わっているということを理解することができた。最も印象に残っていることは、ある子どもが他児と関わりを増やしていく場面に立ち会えたことである。その子はそれまで遊ぶ時、座ったまま一人で遊んでいたが、ある日を境に他の子どもにおもちゃを取られると声を出したり、友だちが面白そうな遊びをしていたら指をさしたりするようになった。

このような日々の生活の中で子どもの成長が見られるということは、連続的に毎日子どもに関わらなければ分からないことだろう。日々の出来事や自分が子どもにどう関わったか振り返ることによって、子どもの発達や成長に対してさらに深く理解できるようになったと思う。自分自身で子どもに対する関わり方や言葉かけなどを反省し、工夫することで改善でき、次に活かすことができると実感した。理論的なことを学ぶことも大切だが、保育の現場に出てみないと分からないことがたくさんあるということに気づいた。保育士も一人ひとりの子どもに寄り添いながら、専門知識と経験を基に、日々、臨機応変に関わっていた。専門的知識や技術を体得し、理念をもって子どもに目を配ることで、子どもを理解することができるのだと思う。現場に出て、活かせるようにもっと深く学んでいきたい。

「子ども理解」の大切さ

子ども支援学科 2年 細谷 早槻

私は、教育インターンシップにおいて幼稚園で毎回、3歳児のクラスに入り、活動させていただいている。活動を通して、まずは子ども理解が大切なのだと改めて感じた。

みんなでお昼にお弁当を食べた後、お弁当を一人で片付けている子もいれば、「お片付けしてね」と言葉をかけることによって理解し、片付けを始める子、言葉だけでは伝わらず、一つ一つ行動を示すことで理解する子と、様々な姿があった。また、先生はそのような子どもの姿の違いを受け止め、言葉をかけていた。同じ3歳児であっても月齢によって発達の違いがあり、一人ひとりの発達に合わせた言葉かけが必要なのだと感じた。

また、子どもたちの成長、発達の早さに改めて気づかされた。ある子は6月一週目の活動では自分で上履きを履くことができず、履き替える時はいつも援助していた。しかし、次の週に幼稚園へ行くと、その子はすんなりと上履きを履き替えていた。大学の授業の中でも子どもの発達は早いと聞いていたものの、一週間でこんなにも違いがあるのだと驚いた。きっと、一日で起こる変化もあると思うので、二週間の教育実習の際は、毎日の生活を通して、子どもの発達にどのような変化が生じるのか見ていこうという課題を持つことができた。


どの活動においても先生の子ども一人一人への理解が基盤にあった。そのような先生方の援助を見て、保育者は子ども理解を基に今の子どもたちに必要な環境や援助を考えて行動することが重要であるということに改めて学んだ。教育インターンシップで実際に子どもたちと登園から降園までの一日を共に過ごすことで、授業で学んだことと子どもの姿とつながりを発見することができた。幼稚園での貴重な経験を通して保育への理解がさらに深まっていると実感している。

9月に教育インターンシップを再開するが、夏休みを終えた子どもたちの発達や遊びにどのような変化があるのか、今から子どもたちに会えるのが楽しみである。

未 来 塾

「人間開発は人づくり」をモットーに！

教育実践総合センターでは、学生のみなさんの様々な学びを応援するために、人間開発学部の先生方による自主講座『未来塾』を開講します。自分の課題に応じて講座を選択し、積極的に受講することができます。

講 座 名		担 当	開講場所・開講期間
高山真琴先生の「ピアノ講座」 講座1 ピアノ講座 講座2 幼稚園実習対策ピアノ講座 講座3 教員採用試験対策ピアノ講座 講座4 保育士資格取得対策ピアノ講座 講座5 就職対策ピアノ講座	■一人一人の目的に合わせて講座が用意されています。	高山 真琴 教授 	1号館 ピアノレッスン室 他
原英喜先生の 講座1 泳ごう、泳げるようになろう！ 講座2 臨海学校見学と小遠泳体験	■教員採用試験対策、指導者としての基礎的な水泳能力向上を、という学生を対象に行います。 ■教育や指導の現場に出るための実践力を養成します。	原 英喜 教授	横浜国際プール 他 6月～10月 千葉県南房総市 他 8月に1泊2日
一 正孝先生の 講座1 テニスを学ぼう 講座2 体育・スポーツ情報を学ぼう	■テニスの実習に加えて、ルールの学習、テニスの観戦やテニス合宿も行います。 ■広く、体育やスポーツ、オリンピックなどについて、書籍やネットで学びます。	一 正孝 教授	テニスコート 一 正孝研究室 5月～3月
結城孝治先生の 講座 はったつ・そだち・ほいく	■乳幼児の発達・保育・障害に関係する、大学で購入している雑誌の講演会です。	結城 孝治 准教授	5月～3月

平成27年度の予定をお知らせします

- 7月15日(水) 15:30～
第1回教育インターンシップ連絡協議会
- 8月23日(日) 13:00～
國學院大學教育実践総合センター
第7回夏季教育講座
「國學院大學国語実践フォーラム」
- 10月25日(日) 13:00～
共育フェスティバル
- 12月
教育インターンシップ 報告会
第2回教育インターンシップ連絡協議会

平成27年度の スタッフを紹介します

◆教育実践総合センター

センター長 柴田 保之
 副センター長 高山 真琴
 担当 小笠原優子
 唐沢はるみ
 銀杏 陽子